

令和5年度

令和5年度木津川市精華町環境施設組合一般会計  
歳入歳出決算並びに基金の運用状況審査意見書

木津川市精華町環境施設組合監査委員

## 目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間及び場所	1
1	期間	1
2	場所	1
第3	審査の方法	1
第4	審査の結果	1
第5	審査の概要	2
1	業務の状況	2
2	本組合会計の決算状況	2
(1)	決算収支状況	2
3	歳入の状況	3
(1)	歳入の決算状況	3
(2)	歳入決算状況の前年度比較	4
(3)	歳入款別決算状況	4
4	歳出の状況	6
(1)	歳出の決算状況	6
(2)	歳出決算状況の前年度比較	7
(3)	歳出款別決算状況	8
5	ごみ処理の原価計算及び発電・受電状況	9
(1)	ごみ処理の原価計算について	9
(2)	発電・受電状況について	10
6	財産に関する調書	10
第6	むすび	11
1	歳入・歳出について	11
2	環境の森センター・きづがわの運転・維持管理について	11
3	各種基金の運用について	12
4	各種基金の活用について	12
5	適正かつ効果的な組織体制について	12
6	業務上横領に係る損害賠償請求の状況について	12

# 令和5年度木津川市精華町環境施設組合一般会計 歳入歳出決算並びに基金の運用状況審査意見書

## 第1 審査の対象

- 令和5年度 木津川市精華町環境施設組合一般会計歳入歳出決算書
- 令和5年度 木津川市精華町環境施設組合一般会計歳入歳出事項別明細書
- 令和5年度 木津川市精華町環境施設組合一般会計実質収支に関する調書
- 令和5年度 木津川市精華町環境施設組合財産に関する調書
- 令和5年度 木津川市精華町環境施設組合基金運用状況報告書

## 第2 審査の期間及び場所

### 1 期間

令和6年10月16日（水）午前9時30分から11時15分まで

### 2 場所

環境の森センター・きづがわ 会議室3-4

## 第3 審査の方法

令和5年度の本組合会計の決算審査に当たっては、管理者から送付を受けた本組合会計の歳入歳出決算書、事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金運用状況報告書が、関係法令等に準拠して調製され、これらに記載された計数の正確性及び予算執行が適正かつ効果的に行われているかを確認するため、各関係諸帳簿、証拠書類と照合を行い、さらに関係職員からの説明聴取及び資料の提出を求めるとともに、当該年度に係る監査及び検査の結果を参考にして審査を行った。

## 第4 審査の結果

審査に付された本組合会計の歳入歳出決算書、附属書類及び基金運用状況報告書は、関係法令等に準拠して調製されており、審査した範囲において、その計数は関係帳簿等と照合した結果、適正に表示、処理されていると認められた。

予算の執行等についても総括的には適正に執行されていると認められた。

また、基金は設置目的に沿って適正に運用されていると認められた。

なお、本組合会計の決算概要及び審査意見は、次のとおりである。

(注)

1 文中及び表中に用いる比率は、小数点以下第2位を四捨五入した。そのため、構成比率について、総計と内訳の計とが一致しない場合がある。

2 文中に用いている「ポイント」とは、パーセンテージ間の差引数値である。

## 第5 審査の概要

### 1 業務の状況

環境の森センター・きづがわについては、供用開始後6年が経過する中、計画的で適切な運転や維持管理を行うことで、特段の支障等もなく稼働されている。引き続き、運転維持管理業務委託事業者とともに、安全かつ安定した焼却処理に努められたい。

令和5年度は、通常通り、本組合構成市町の家庭系可燃ごみ及び事業系一般廃棄物を受け入れ、焼却処理が行われた。

結果、令和5年度のごみの受入量は、下表のとおり、年間2万3,704.4トンで、前年度に比べ44.13トン(△0.2%)減少した。令和2年度以降、コロナ禍を背景とした社会情勢のもと、特に家庭系可燃ごみは増加傾向が見受けられていたが、令和4年度には減少(△153.54t)に転じ、新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日から「5類感染症」に位置付けられるとともに、令和5年度の受入ごみ量も大きく減少(△346.35t)したことから、これらの影響は、一定、収束してきたものと推察される。一方、事業系一般廃棄物は増加しており、コロナ禍における事業活動への影響回復や草木搬入の増加によるものと考えられる。

また、令和5年度における各設備の点検状況については、先述のとおり、日常点検はもとより、年2回の全炉停止期間を利用した定期点検などが計画的に実施されている。令和7年度末までの長期継続業務委託契約に基づき、引き続き、安全かつ安定した運転や維持管理にむけ、適切かつ定期的な点検・整備に努められたい。

なお、令和5年度は環境の森センター・きづがわ環境監視委員会を3回開催し、施設の運転状況や本組合の予算・決算状況等を報告するなど、地元住民に対して本施設の運営にかかる理解に努められていることを確認した。

#### 受入ごみ量

(単位：t、%)

	R5年度	R4年度	比較	
			R5-R4	増減率
家庭系可燃ごみ	16,864.30	17,210.65	△ 346.35	△ 2.0
事業系一般廃棄物	6,840.10	6,537.88	302.22	4.6
計	23,704.40	23,748.53	△ 44.13	△ 0.2

### 2 本組合会計の決算状況

#### (1) 決算収支状況

令和5年度の決算額は、予算現額6億5,361万3,000円に対して、  
歳入 6億5,361万 802円(予算現額対比100.0%)  
歳出 6億4,629万1,001円(同 98.9%)

前年度に比べると、

歳入 6,928万4,811円(△9.6%)の減  
歳出 6,956万9,098円(△9.7%)の減

形式収支額及び実質収支額は、731万9,801円の黒字となっている。

### 決算収支対前年度比較表

(単位：円、%)

区 分	R5年度	R4年度	増減額 (R5-R4)	増減率
予 算 現 額	653,613,000	722,896,000	△ 69,283,000	△ 9.6
歳 入 額	653,610,802	722,895,613	△ 69,284,811	△ 9.6
歳 出 額	646,291,001	715,860,099	△ 69,569,098	△ 9.7
形 式 収 支 額	7,319,801	7,035,514	284,287	4.0
翌年度繰越財源額	0	0	0	0.0
実 質 収 支 額	7,319,801	7,035,514	284,287	4.0

### 3 歳入の状況

#### (1) 歳入の決算状況

当該年度の歳入決算額は、6億5,361万802円で予算現額に対する割合は100.0%、調定額に対する割合は100.0%である。

歳入のうち、主なものは、分担金及び負担金4億1,010万5,884円（構成比率62.7%）及び使用料及び手数料1億9,750万2,118円（構成比率30.2%）である。

なお、各款別歳入決算額の内訳は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

款	予算現額	調定額	収入済額	構成比	収入率	
					対予算	対調定
分担金及び負担金	410,110,000	410,105,884	410,105,884	62.7	100.0	100.0
使用料及び手数料	197,501,000	197,502,118	197,502,118	30.2	100.0	100.0
財 産 収 入	35,000	34,407	34,407	0.0	98.3	100.0
繰 入 金	9,200,000	9,200,000	9,200,000	1.4	100.0	100.0
繰 越 金	3,035,000	3,035,514	3,035,514	0.5	100.0	100.0
諸 収 入	33,732,000	33,732,879	33,732,879	5.2	100.0	100.0
歳 入 合 計	653,613,000	653,610,802	653,610,802	100.0	100.0	100.0

#### (参考) 令和4年度 歳入決算状況

(単位：円、%)

	予算現額	調定額	収入済額	構成比	収入率	
					対予算	対調定
歳 入 合 計	722,896,000	722,895,613	722,895,613	100.0	100.0	100.0

## (2) 歳入決算状況の前年度比較

本年度決算額を前年度と比較すると、下表のとおり6,928万4,811円(△9.6%)の減である。

前年度と比較して、減となった主なものは、分担金及び負担金(△8,552万312円)である。一方、使用料及び手数料が706万2,929円増、撤去整備基金からの繰入金が920万円皆増している。

また、決算額の構成比をみると、分担金及び負担金が68.6%から62.7%に5.9ポイント低下した一方で、使用料及び手数料が26.3%から30.2%に3.9ポイント、繰入金が0%から1.4%に1.4ポイント、諸収入が4.7%から5.2%に、0.5ポイントそれぞれ上昇している。

### 歳入決算状況の前年度比較

(単位：円、%)

款	R5年度	R4年度	比較増減		構成比	
			金額	増減率	R5	R4
分担金及び負担金	410,105,884	495,626,196	△ 85,520,312	△ 17.3	62.7	68.6
使用料及び手数料	197,502,118	190,439,189	7,062,929	3.7	30.2	26.3
財産収入	34,407	45,066	△ 10,659	△ 23.7	0.0	0.0
繰入金	9,200,000	0	9,200,000	皆増	1.4	0.0
繰越金	3,035,514	3,010,600	24,914	0.8	0.5	0.4
諸収入	33,732,879	33,774,562	△ 41,683	△ 0.1	5.2	4.7
歳入合計	653,610,802	722,895,613	△ 69,284,811	△ 9.6	100.0	100.0

## (3) 歳入款別決算状況

款別の歳入状況の概要は、次のとおりである。

### 第1款 分担金及び負担金

分担金及び負担金の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
分担金	399,071,000	399,071,000	100.0	484,574,000	△ 85,503,000	△ 17.6
負担金	11,039,000	11,034,884	100.0	11,052,196	△ 17,312	△ 0.2
計	410,110,000	410,105,884	100.0	495,626,196	△ 85,520,312	△ 17.3

分担金及び負担金の収入済額は、4億1,010万5,884円で、前年度に比べ17.3%の減である。

また、分担金、負担金の予算現額及び調定額に対する収入率は、いずれも100.0%である。

分担金の内容は、木津川市精華町環境施設組合規約に基づく構成市町からの分担金収入で、普通分担金3億6,213万3,000円(前年度4億6,780万1,000円)、打越台環境センター撤去整備分担金3,693万8,000円(前年度1,677万3,000円)である。

また、負担金の内容は、フェニックス埋立処分場整備委託料、廃乾電池処理、小動物死体処理及び伊賀市環境保全負担金である。

## 第2款 使用料及び手数料

使用料及び手数料の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
使用料	3,000	3,251	108.4	3,251	0	0.0
手数料	197,498,000	197,498,867	100.0	190,435,938	7,062,929	3.7
計	197,501,000	197,502,118	100.0	190,439,189	7,062,929	3.7

使用料及び手数料の収入済額は、1億9,750万2,118円で、前年度に比べ3.7%の増である。

使用料の予算現額に対する収入率は108.4%、調定額に対する収入率は100.0%であり、収入済額は、自動販売機の敷地使用料である。

また、手数料の予算現額及び調定額に対する収入率は、いずれも100.0%であり、収入済額の主なものは一般廃棄物処理手数料で、事業系一般廃棄物の増加などにより、前年度に比べ706万2,929円の増である。

なお、令和5年度における一般廃棄物処理手数料の収入未済はなかった。

## 第3款 財産収入

財産収入の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
財産運用収入	35,000	34,407	98.3	45,066	△10,659	△23.7

財産運用収入の収入済額は、3万4,407円で、前年度に比べ23.7%の減である。

予算現額に対する収入率は98.3%、調定額に対する収入率は100.0%であり、収入済額は、財政調整基金、振興特別基金、打越台環境センター撤去整備に関する基金及び環境の森センター・きづがわ維持管理基金の運用による利子収入である。

主に利率の低下により、前年度に比べ1万659円の減となったものである。

## 第4款 繰入金

繰入金の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
基金繰入金	9,200,000	9,200,000	100.0	0	9,200,000	皆増

基金繰入金の収入済額は、920万円で、前年度に比べ皆増である。

予算現額及び調定額に対する収入率は、いずれも100.0%であり、収入済額は、打越台環境センター撤去整備に関する基金からの繰入金である。

組合債元金償還（打越台環境センター解体撤去工事）に充当するため、繰入れたものである。

#### 第5款 繰越金

繰越金の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
繰越金	3,035,000	3,035,514	100.0	3,010,600	24,914	0.8

繰越金の収入済額は、303万5,514円で、前年度に比べ0.8%の増である。

予算現額及び調定額に対する収入率は、いずれも100.0%である。

#### 第6款 諸収入

諸収入の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度収入済額	収入率	R4年度収入済額	増減額	増減率
組合預金利子	2,000	2,299	115.0	2,525	△226	△9.0
雑入	33,730,000	33,730,580	100.0	33,772,037	△41,457	△0.1
計	33,732,000	33,732,879	100.0	33,774,562	△41,683	△0.1

諸収入の収入済額は、3,373万2,879円で、前年度に比べ0.1%の減である。

組合預金利子の予算現額に対する収入率は115.0%、調定額に対する収入率は100.0%であり、収入済額は、普通預金利子である。

また、雑入の予算現額及び調定額に対する収入率は、いずれも100.0%であり、収入済額の主なものは余剰電力売電料で、年間計画に基づく安定的な運転に努めたものの、前年度に比べ4万1,457円の減となったものである。

### 4 歳出の状況

#### (1) 歳出の決算状況

当該年度の予算現額6億5,361万3,000円に対して、歳出決算額は6億4,629万1,001円で、執行率は98.9%（前年度99.0%）である。

歳出の中で構成比率の高いものは、衛生費76.8%である。

各款別歳出決算額の内訳は、次表のとおりである。



(単位：円、%)

款	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	支出済額	
					構成比	執行率
議会費	572,000	505,022	0	66,978	0.1	88.3
総務費	105,850,000	103,382,088	0	2,467,912	16.0	97.7
衛生費	500,136,000	496,349,602	0	3,786,398	76.8	99.2
公債費	46,055,000	46,054,289	0	711	7.1	100.0
予備費	1,000,000	0	0	1,000,000	0.0	0.0
歳出合計	653,613,000	646,291,001	0	7,321,999	100.0	98.9

(参考) 令和4年度 歳出決算状況

(単位：円、%)

	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	支出済額	
					構成比	執行率
歳出合計	722,896,000	715,860,099	0	7,035,901	100.0	99.0

## (2) 歳出決算状況の前年度比較

本年度決算額を前年度と比較すると、下表のとおり6,956万9,098円(△9.7%)の減である。

前年度と比較して、減となった主なものは、衛生費(△9,102万5,371円)、総務費(△789万4,377円)である。一方、公債費は2,937万424円の増である。

また、決算額の構成比をみると、衛生費が82.1%から76.8%に5.3ポイント低下した一方で、公債費が2.3%から7.1%に4.8ポイント、総務費が15.5%から16.0%に0.5ポイント上昇している。

## 歳出決算状況の前年度比較

(単位：円、%)

款	R5年度	R4年度	比較増減		構成比	
			金額	増減率	R5	R4
議会費	505,022	524,796	△19,774	△3.8	0.1	0.1
総務費	103,382,088	111,276,465	△7,894,377	△7.1	16.0	15.5
衛生費	496,349,602	587,374,973	△91,025,371	△15.5	76.8	82.1
公債費	46,054,289	16,683,865	29,370,424	176.0	7.1	2.3
予備費	0	0	0	0.0	0.0	0.0
歳出合計	646,291,001	715,860,099	△69,569,098	△9.7	100.0	100.0

### (3) 歳出款別決算状況

款別の歳出状況の概要は、次のとおりである。

#### 第1款 議会費

議会費の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度支出済額	執行率	R4年度支出済額	増減額	増減率
議会費	572,000	505,022	88.3	524,796	△ 19,774	△ 3.8

議会費の支出済額は、50万5,022円で、執行率は88.3%であり、前年度(88.6%)に比べ0.3ポイント低下している。

主な支出済額は、会議録作成委託27万7,750円(前年度28万3,305円)である。

#### 第2款 総務費

総務費の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度支出済額	執行率	R4年度支出済額	増減額	増減率
総務管理費	105,820,000	103,360,752	97.7	111,254,421	△ 7,893,669	△ 7.1
監査委員費	30,000	21,336	71.1	22,044	△ 708	△ 3.2
計	105,850,000	103,382,088	97.7	111,276,465	△ 7,894,377	△ 7.1

総務費の支出済額は、1億338万2,088円で、執行率は97.7%であり、前年度(98.7%)に比べ1ポイント低下している。

総務管理費の主な支出済額は、一般管理費5,337万5,076円及び財産管理費4,996万566円で、前年度に比べ789万3,669円の減である。

その主な要因は、人員体制の変更及び給与改定により給料等が前年度より536万292円増加したものの、前年度に実施した事務室内ネットワーク機器類等の更新に伴う基盤サーバーや業務端末等の購入及び設定作業等(1,509万2,000円)が皆減したことより、減額となったものである。

#### 第3款 衛生費

衛生費の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度支出済額	執行率	R4年度支出済額	増減額	増減率
清掃費	500,136,000	496,349,602	99.2	587,374,973	△ 91,025,371	△ 15.5

衛生費の支出済額は、4億9,634万9,602円で、執行率は99.2%であり、前年度(99.2%)と同様である。

支出済額は、清掃総務費8,077万1,861円及び塵埃処理費4億1,557万7,741円で、前年度に比べ9,102万5,371円の減である。

その主な要因は、塵埃処理費において、社会情勢の変化に伴う薬剤等の消耗品費や燃料費の価格高騰により需用費は591万5,208円の増額となった一方で、長期継続契約である運転維持管理業務（維持管理業務）は各年度における点検・補修項目等による委託料の増減があり、令和5年度は前年度より1億323万1,700円減であったことにより、減額となったものである。

#### 第4款 公債費

公債費の決算状況は、下表のとおりである。

(単位：円、%)

項	R5年度予算現額	R5年度支出済額	執行率	R4年度支出済額	増減額	増減率
公債費	46,055,000	46,054,289	100.0	16,683,865	29,370,424	176.0

公債費の支出済額は、4,605万4,289円で、執行率は100.0%であり、前年度と同様である。

支出済額は、打越台環境センター解体・撤去工事の財源措置として、令和元年度に借入れた組合債（1億2,670万円、利率0.235%、2年据置、10年償還）に続き、令和2年度に借入れた組合債（2億3,540万円、利率0.238%、2年据置、10年償還）の元金償還が令和5年度から開始し、利子償還を合わせ、前年度に比べ2,937万424円の増である。

### 5 ごみ処理の原価計算及び発電・受電状況

#### (1) ごみ処理の原価計算について

支出済額及びごみ焼却量に基づき、令和5年度のごみ処理の原価計算を行うと、次表のとおり1トンあたり23,004円の経費を要している。

令和5年度の維持管理費が減額となったことなどにより、前年度に比べ1トンあたり5,063円の減となった。

今後も、年次で見込まれている定期の維持管理項目等による増減はあるものの、当面は概ね同様の水準で推移するものと考えられるが、経年による機器類の消耗・補修及び不具合等の発生も懸念される。

引き続き、計画的な運転管理のもと、日常点検はもとより、定期点検や施設の保全管理を適切に行い、維持管理費の節減及びごみ処理原価の低減に努めること。

また、多額の費用負担が見込まれる際は、環境の森センター・きづがわ維持管理基金の適切な活用に留意すること。

(単位：t、円)

	支出済額	控除額	ごみ処理経費等	備考 (控除額の内容等)
議会費	505,022	0	505,022	
総務費	103,382,088	49,960,566	53,421,522	・打越台環境センター撤去整備基金利子等 ・環境の森センター・きづがわ維持管理基金財源
衛生費	496,349,602	11,118,154	485,231,448	・打越台環境センターに係る汚染負荷量賦課金 ・ごみ焼却外処理負担事業費(廃乾電池処理等)
公債費	46,054,289	46,054,289	0	・打越台環境センター解体・撤去工事に係る起債償還
計	646,291,001	107,133,009	539,157,992	
R5 焼却処理量 b			23,437.24	
R5ごみ1トンあたり処理原価 a/b			23,004	
R4ごみ1トンあたり処理原価			28,067	

## (2) 発電・受電状況について

環境の森センター・きづがわは、ごみ焼却施設として位置付けられる一方、その焼却で発生する熱を利用した発電を行っており、発電所としての一面をもっている。

発電で得られた電力は、所内で利用する他、余剰電力については(株)タクマエナジーに売却し、環境の森センター・きづがわ維持管理基金への積立財源として活用している。

(単位：kWh、%)

	R5年度	R4年度	増減	増減率
発電電力量	7,237,390	7,001,600	235,790	3.4
所内利用電力量	3,748,249	3,695,621	52,628	1.4
余剰電力量	3,489,141	3,305,979	183,162	5.5
受電電力量	410,995	414,807	△ 3,812	△ 0.9

## 6 財産に関する調書

公有財産(土地、建物)、物品及び基金の本年度の状況は次のとおりである。

## ①公有財産

区分	行政財産	決算年度末現在高
土地(地積)	なし	— m <sup>2</sup>
建物(延面積)	なし	— m <sup>2</sup>

## ②物品(取得金額又は見積価格が50万円以上)

区分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
車輛	3点	増減なし	3点
事務用器具	3点	増減なし	3点

## ③基金

区分	前年度末現在高	決算年度中増減高	決算年度末現在高
財政調整基金	1億8,180万6,697円	400万9,227円	1億8,581万5,924円

振興特別基金	2,202万9,721円	441円	2,203万162円
打越台環境センター 撤去整備に関する基金	6,465万5,398円	△919万6,743円	5,545万8,655円
環境の森センター・ きづがわ維持管理基金	1億9,086万8,430円	4,994万7,641円	2億4,081万6,071円
合計	4億5,936万246円	4,476万566円	5億412万812円

## 第6 むすび

### 1 歳入・歳出について

歳入では、手数料の収入が、草・剪定枝等を含む事業系一般廃棄物の増加などにより、前年度に比べ706万2,929円増の1億9,749万8,867円であった。

令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症によるごみ搬入量への影響は、一定、収束してきたものと推察されるなか、処理手数料収入の増は、財政上は有利に働くものの、その一方で、除草等による一時的な受入量の増減などは、ごみ質の変化など焼却処理への影響も懸念されることから、これらの傾向等について、引き続き、注視するとともに、日々の運転及び維持管理に努められたい。

また、諸収入に計上されている余剰電力の売却による収入が、前年度に比べ6万6,436円減の3,266万2,796円であった。

例年同様、電力需要が高まる夏季において、約3か月間の2炉連続運転を行うなど、適切な運転計画のもと、効率的な発電に努めたことを評価する。併せて、落雷等による緊急的な受電や燃料価格の高騰に伴う電気料金の調整額等も低減されるなど、光熱水費が前年度に比べ159万136円の減となったが、引き続き、業務全般における節電対策等にも努められたい。

なお、この余剰電力の収益は、環境の森センター・きづがわの維持管理費の一部に充当するための財源となることから、引き続き、その確保に努められたい。

歳出では、最も大きな割合を占める衛生費（構成比76.8%）が、前年度に比べ9,102万5,371円減の4億9,634万9,602円であった。

主な要因は、長期継続契約である運転維持管理業務（維持管理業務）について、令和5年度は、前年度より1億323万1,700円減となったものである。

なお、需用費は591万5,208円増となっており、社会情勢の変化に伴う薬剤等の消耗品費や燃料費の価格高騰による影響も見受けられることから、引き続き、これらの動向も注視しつつ、安全かつ効率的な運転管理に努められたい。

### 2 環境の森センター・きづがわの運転・維持管理について

令和3年9月以降、環境の森センター・きづがわの運転・維持管理は、令和7年度末までの長期継続契約に基づき、夜間や休日等の運転管理及び設備点検に関する業務について民間事業者（タクマ・タクマテクノス特定運營業務共同企業体）に委託しており、安定した連続稼働のためには民間事業者との連携が欠かせない。

引き続き、日々の朝礼・夕礼時における職員と民間事業者との引継ぎ、民間事業者とともに定期的に行われている運転計画会議や安全パトロールなどにより十分に情

報共有を図り、迅速かつ適切な運転・維持管理を継続されたい。

### 3 各種基金の運用について

令和5年度末における4種類の基金については、複数の金融機関での定期預金による基金運用を行っている。

リスクマネジメントの観点などから、分散管理は有効的なものと認められる。

また、預け入れ金融機関における利率に大きな差も見受けられたところ、財政調整基金の一部において、高利率の金融機関での預け入れを開始する動きも見られた。

引き続き、確実かつ効率的な運用という観点のもと、適切な管理運用に努められたい。

### 4 各種基金の活用について

打越台環境センター撤去整備に関する基金については、令和5年度末の現在高が5,545万8,655円で、打越台環境センター解体・撤去工事に係る、令和元年度起債分(1億2,670万円)に加え、令和2年度起債分(2億3,540万円)の元金償還が令和5年度から開始となったことから、その財源として920万円を取り崩した。前年度末残高から919万円の減額であるが、当該基金の設置目的に沿った、適切な活用であると認められる。

また、本施設の維持管理の費用に充てるために設置している、環境の森センター・きづがわ維持管理基金については、令和5年度末の現在高が2億4,081万6,071円で、供用開始後5年が経過する中、適切な運転管理のもと、これまで特段の支障等もなく稼働されているところではあるが、安全かつ安定した稼働を継続するためには、計画的で適切な設備等の修繕、更新等が求められる。

今後、これらの費用負担が発生する際は、組合構成市町の分担金負担が大きく増加する見込みであることから、各種基金の効果的な活用により、年度間における負担の平準化をはかるなど、適切に対処されたい。

### 5 適正かつ効果的な組織体制について

令和5年4月から、事務局長の常駐化及び総務課職員に構成自治体の再任用職員を充てるなど、事務局の人員体制を一部変更した。

組織全体のマネジメント力の向上や再任用職員が構成自治体で培ってきた豊富な業務経験を活かすといった、有益な効果が期待できるものであると考えられることから、引き続き、適正な組織体制の構築及び人員配置のもと、円滑な業務推進に努められたい。

### 6 業務上横領に係る損害賠償請求の状況について

平成22年8月10日に判明した、本組合の嘱託職員による処理手数料の一部を着服した不祥事案は、平成25年1月16日に懲役2年6か月の判決が確定し、その後、本組合が被った損害に対して、組合議会の議決を経て平成25年1月10日に損害賠償請求事件の民事訴訟を提起し、平成25年4月16日に判決が確定している。

民事訴訟の判決は、被害額(元本)1,172万1,660円と遅延損害金215万

8,891円の合計1,388万551円の支払い請求である。

現在、年間96万円（毎月3万円、偶数月10万円加算）の返済を受けており、令和5年度末時点における損害賠償金の総額は、被害額（元本）589万8,660円、遅延損害金766万8,459円の合計1,356万7,119円（前年度末1,420万7,044円）となっている。

令和元年12月から返済金を増額したことにより、損害賠償金の総額に関して減少が見られる一方で、本人の収入や年齢などからすると、損害賠償金の完済を見込むことが困難な状況であると推察するが、引き続き、損害賠償金の徴収及び滞納整理に努められたい。

以 上